

●鎌倉市本庁舎整備方針市民対話（第 5 回）を開催しました

鎌倉市は平成28年度末までの本庁舎整備方針の策定をめざし、取組を進めています。

■鎌倉市本庁舎整備方針市民対話（第5回）

市民の視点やアイデアを本庁舎整備方針に取入れるために、市民対話（全5回）の取組を進めており、最終回として第5回市民対話を開催しましたので、その概要をお知らせします。

■開催概要

第5回市民対話は、第4回に引き続き、これまでの市民対話で出された意見を冊子「市民の想い」にまとめていく作業を行いました。具体的には、第4回で編集した「市民の想い」の案について、全体で意見交換を行いながら、内容を推敲し、最終案をまとめていきました。最後に「市民の想い」を、市民対話メンバーから市長に手渡していただきました。

日 時： 平成28年12月4日（日）
9時30分～11時30分
会 場： 鎌倉市役所 第4分庁舎2階 822会議室
参加者： 計11名（市民対話メンバー6名、神奈川大学学生5名）
テーマ： 「市民の想い」を推敲し、最終案として仕上げる
次 第：

オープニング

全体対話 各章を読み合わせ、内容を全員で推敲する。
全体の構成について、改善に向けた意見を皆で出し合う。
出された意見をもとに、最終案をまとめる。
「市民の想い」を市長に手渡す。

クロージング



読み合わせの様子

■対話の主な内容

第4回市民対話で編集した「市民の想い」の案を推敲し、最終案として整理した。全体構成や、各章の主な意見は次のとおりである。なお、当日欠席の市民対話メンバーについては、事前に資料を送付し、別途意見をもらうこととした。



意見交換の様子

□全体の構成等について

- ・ 基本的な全体構成やボリュームは、概ね良い。
- ・ Part1とPart3はやわらかい表現（縦書き）であるが、Part2はややかたい表現（横書き）となっている。
- ・ 各章のつながりや表現方法は、全体のバランスをみて調整する必要がある。

- ・内容がハード面に特化しているように見えるが、ソフト面も取り上げたい。
- ・読み手に大きな誤解を与えないような書き方にしたい。
- ・言葉を補足するために、コラム的な追記を入れる方法もある。
- ・市民にどう届けていくのかも重要である。



推敲の様子

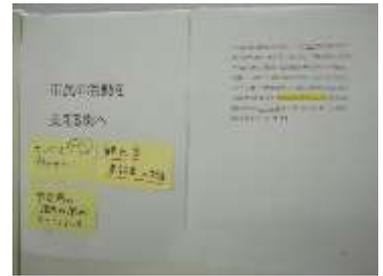
□各章の内容について

○Part1 「(仮) 本庁舎、こんな風に見えてます」

- ・「暗い」などのネガティブイメージが多い。
- ・職員の対応など良いイメージも伝えたい。
- ・タイトルをみて、内容が推測できるもののほうがわかりやすい。

○Part2 「(仮) 市民がもとめる本庁舎の姿とは？」

- ・市民活動も含めた市民目線の書き方が望ましい。
- ・市民サービス向上のためにも職員の就業環境をアップさせるニュアンスを入れたい。
- ・観光客の存在にも触れてほしい。
- ・「50年後」に限定するのではなく、「50年先、100年先」や「次世代、次々世代に向けて」としたい。



推敲した1例

○Part3 「(仮) ぶらっとうらかま」

- ・このパートのテーマは、現在地がどうなったらいいかである。
- ・「うらかま」の用語は意見の1つであり、市民には定着・浸透していないため、タイトルなどで使用するのを避けたい。
- ・現在地は、津波による浸水が予測されているため、「災害時にすぐ逃げ込める場所」とするには問題がある。



市長に手渡し

■参加者からのご意見・ご感想

最後に、市民対話メンバーの皆様から本庁舎整備方針市民対話に参加したご感想やご意見をいただきました。

- ・市民と市役所の信頼関係が生まれる機会であり、継続することが大切。
- ・このような機会をできるだけ作ってほしい。
- ・改めていろいろな意見があると認識した。
- ・何かやりたいと思っていたので、参加できてよかった。
- ・若い人の意見をもっと聴きたい。
- ・機会を与えてもらい感謝している。多くの人に支えられていることがわかった。

■今後について

これまでの5回の市民対話を通して出された意見等をまとめた「市民の想い」は、鎌倉市本庁舎整備方針策定委員会にも共有され、本庁舎整備を進める上での大切な資料になります。